

監督 槇坪亨鶴子

代表作「老親ろうしん」「母のいる場所」
自立と共生をテーマに7作品を製作・監督



人は地域の中で、様々な人とふれ
合い、支え合える環境があれば、障害
があるなしに関係なく、「その人らし
く生きること、成長つづけることが、
夢ではない」と信じています。

この映画は、全国各地からの多くの方々のご支援、ご協力で
完成しました。感謝申し上げます。

星の国から孫ふたり

～「自閉症」児の贈りもの～

原作 門野 晴子

『星の国から孫ふたり』-パークレーで育つ「自閉症」児-
『ギフトッド・チャイルド』-「自閉症」児からの贈りもの-

重い障がい生きる槇坪監督が、拙著の「星の国から孫ふ
たり」を映画化するのがとてもうれしい。いわゆる障がいも
のには絶対ならない監督の人間観が、「面白くて可愛い不思議
な生きもの」に映像の息吹を与える楽しみ。

実際の私の孫たちは米・パークレー市に住む日米ミックス
の異星人だが、映画では日本人に置き替えたことでよりリア
リティを帯びた。

不思議ないのちがりのままの個性としてこの国に受容さ
れる日まで、私も監督もはたして生きていられるや否や？



ものがたり

作家の太田弓子（馬淵晴子）はパークレーから帰国した娘の陽子
（加藤忍）、その夫の敏夫（比留間由哲）、3歳になる孫のかおると
久しぶりに再会した。だが、かおるは、まだおむつも取れず、「プー
ラベン デュワイン！」とまるで宇宙語のような言葉を発し、医
者に診てもらおうと「自閉症の疑いがある」との診断。仕事人間の夫は、
「子育てに問題があるのでは」と陽子を責める.....。

一方、弓子は「自閉症って不思議がいっぱい」と前向きに日々
のかおるの成長を見守る。そこに、パークレーから、発達障害の専門家・
村井ひとみ（乾貴美子）が訪れ、「アメリカでの積極的な自閉症（オー
ティズム）への早期発見、早期療育の取り組みは人々が勝ち取って
きた」と語る。弓子の息子・拓也（ミョンジュ）は、ひとみとスカ
イプで交信しながら発達障害の専門家になる勉強を始める。そんな
時、妹のらんも自閉症だと認定されてしまう。再びゆれる家族.....。

らんは、幼稚園に、かおるは小学校の特別支援学級に入学する。
かおるはそこで母をなくし心を閉ざしたマリアと出会う。「自分本
位と言われている自閉症のかおるがマリアを想って泣いた！」かお
るの初恋だと喜ぶ陽子達。「みんなに、もっと、かおるとらんのこと、
自閉症について知ってもらおう」と弓子達は地域の人たちへ支援の
輪を広げるために街に出る。



比留間由哲 加藤忍

アシュリー・パーク 小野駿希

紺野美沙子 加藤忍

小林桂樹

この映画は自閉症の特徴をうまく表現して、あるべき
支援の仕方を提示している点で、ぜひ鑑賞して欲しい作
品である。



監修 市川宏伸
東京都立梅ヶ丘病院 院長

何年かぶりに帰国した娘は、コ
ミュニケーションが難しい孫と一緒
であった。続いて生まれてきた妹も
自閉症を疑われた。
この映画に登場する人々は戸惑い
つつも、孫を「星の国からの贈りもの」ととらえ、自閉症
を肯定的にとらえている。同年齢の子とも比較して
「何処が違っているか？」ではなく、「その子どもにも目を
向け、何処がよくなったか？」に着目することは重要な
ことである。



主演 馬淵晴子

乾貴美子 ミョンジュ

障がいのある方にも、優しく暮らせる社会は、誰に
とっても豊かな社会です。日本には、無意識のうち
に同じもの、同じ生き方を求める文化があります。しか
し本来、人それぞれの違いや良さを発見し、認め合う
ことが大切です。
子どもに関わるすべての方に、ぜひ一度見ていただき
たい映画です。



監修 星山麻木
明星大学人文学部心理・教育学科教授

映画「星の国から孫ふたり」は、
自閉症という見た目にはわかりに
くい違いのある子ども達を、懸命
に育てているご家族の視点から理
解を深める、心温まる映画です。

製作 『星の国から孫ふたり』 製作委員会

企画制作 パオ(有)
www.pao-jp.com

〒156-0044 東京都世田谷区赤堤2-43-13-531
TEL.03(3327)3150 FAX.03(5376)8462